

肝胆膵高難度外科手術 [Web 動画付] 第 3 版

〔評者〕 海道利実

聖路加国際病院消化器・一般外科部長

消化器外科手術の中でも肝胆膵外科手術は難易度が高い手術が多い。それゆえ、高難度肝胆膵外科手術を日本全国の皆さんに安全かつ安心して受けていただくことを理念として、2011 年に日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度が立ち上げられた。その趣旨は、「高難度の手術をより安全かつ確実に行うことができる外科医師を育てる」ことであり、実技評価に基づき、術者とその修練施設を認定するものである。発足後、10 余年を経て、2022 年 7 月現在、高度技能専門医 497 名、修練施設 288 施設と、多くの高度技能専門医と修練施設が認定された。しかし、本制度は専門医の質を担保するべく、書類と手術ビデオにより厳密に審査が行われるため、合格率は 50% 前後と外科系基盤学会の専門医合格率（外科専門医合格率約 95%、消化器外科専門医合格率約 75%）と比べ、狭き門となっている。

そこで、高度技能専門医をめざす肝胆膵外科医や指導的立場の高度技能指導医が知っておくべき外科解剖や基本手技、偶発症に対する対処法、

代表的な術式などを解説した公的テキストが本書である。2010 年の初版、2016 年の第 2 版を経て、今回、大幅に内容を改訂して 2023 年 6 月に第 3 版が発刊された。

第 3 版では、審査する側が気付いた問題点を反映し、より一層申請者のニーズに応え、わかりやすい内容となった。換言すれば、“痒いところに手が届く” 指南書と言えよう。その特徴を 3 つ挙げたい。1 点目は、「手術記録の書き方」や「ビデオの上手な撮り方」など、申請者が特に知りたかった具体的なコツを「技術認定取得のための心構え・留意点」として、I 章に独立させた点である。2 点目は、II 章の「肝胆膵の外科解剖」に、内視鏡外科時代の新たな解剖学的知見である PAM（precision anatomy for minimally invasive surgery）を肝臓・膵臓それぞれについて追加した点である。3 点目は、V 章の「基本となる高難度手術術式」に加え、VI 章として近年、肝胆膵外科領域でも導入が進んでいる「腹腔鏡下・ロボット支援下肝胆膵手術」を肝切除、総胆管嚢腫切除、

膵頭十二指腸切除術、膵体尾部切除術について詳細に解説している点である。

さらに第 3 版では、文章や図による説明のみでは理解しにくい点について、要所要所に 35 編の Web 動画を収載している。“百聞は一見に如かず” であり、これらによって、読者の理解が高まることはいうまでもない。

評者は高度技能指導医であり、手術が大好きである。今回、本書を熟読し、Web 動画を見ることで、新たな気付きがあり、楽しく清々しい気分になった。高度技能専門医をめざす若き肝胆膵外科医の皆さんはもちろん、ベテラン外科医の皆さんも、本書をお読みいただくことで、より安全かつ質の高い高難度肝胆膵外科手術の遂行が可能になると信じてやまない。ぜひ、ご一読いただきたい。

● B5/頁 384/2023 年 6 月

定価：12,100 円

（本体 11,000 円＋税 10%）

[ISBN978-4-260-05111-8]

医学書院 刊